



Ritsumeikan University
College of Letters

教 学 の 手 引 き

2005

英 米 文 学 専 攻

English and American Literature Major

文 学 部

Table of Contents

英米文学専攻

English and American Literature Major

■ 英米文学専攻 教学紹介

① 教育理念・目標	3
② 1・2回生小集団科目	3
③ 3・4回生小集団科目	3
④ 講義諸科目	4
⑤ 講読科目	4
⑥ 英会話・英作文法など	4
⑦ 人文科学総合講座	4
⑧ テーマリサーチ型ゼミナール	5
⑨ 研究入門（1回生小集団科目）について	5
⑩ 卒業論文（4回生小集団科目）について	11

■ 履修方法とユニットプログラム 履修モデル

① 科目一覧（2004年度以降入学生）	22
② 履修方法（2004年度以降入学生）	22
③ 科目一覧（2003年度までの入学生）	23
④ 履修方法（2003年度までの入学生）	23
⑤ 受講登録上の注意	24
⑥ ユニットプログラム	25
⑦ 履修モデル	27

■ 学修を進めるにあたって

① 文献資料室と共同研究室	31
② クラスロッカーの使用方法について	31
③ セミナーハウスの正課利用の手引き	32
④ 学生印刷室の利用について	33
⑤ 自主ゼミ援助制度について	34
⑥ 「小集団教育推進補助費」の取り扱いについて	34
⑦ 清心館「学生談話室」の利用について	35
⑧ 立命館大学人文学会	35
⑨ 文学部事務室について	36



英米文学専攻 教学紹介

1 教学理念・目標

英米文学専攻は、イギリス、アメリカ、あるいはカナダなど英語圏の文学や演劇、英語学を中心に英語で表現された文化の学習と研究を通じて、多様な文化についての見識を拡げ、言葉や文化のもつ意味、人間と社会のあり方を見極めることを基本的目的としています。

そのためには、英米など英語圏の国民とその文学・言語の特性や歴史について、基礎知識を身につけるとともに、広くさまざまな文献とテキストを読むことが肝要です。また、文学・言語の基礎的な理論や、批評・論文によって自己の文学観や言語観を養わなくてはなりません。この意味で、インスティテュート各コースの諸科目のうち、とりわけ専攻に隣接する分野の講義や講読を、履修モデルを参考にして積極的に受講してみることも有意義であると思われます。これらを基礎として、各自が自分の研究テーマを遅くとも3年生終了時には確定し、4年間の総括としての卒業論文に取り組むことになります。

英米文学専攻では、当然のこととして、十分な外国語学力が必要とされます。原書によって作品・作家を知るのに必要な、正確で感受性ゆたかな読解力はむろんのこと、こうした読解力の支えとなる表現力（話し・書く力）あるいは英語音声やリズムをききわけるとともに聴解力をもつとめて鍛えてください。専攻の実技的な科目とともに、低回生時の外国語科目の学習によって実践的な語学力を身につけてください。

専攻諸科目のうちでも「軸」をなすのは、研究入門→基礎講読→演習 → 演習 という回生別小集団クラスです。これらのクラスでは、ひとりひとりの自主的・意欲的学習姿勢と共同学習、グループ研究が必要です。基礎科目や専門諸科目で学んだ知識を、ここで各自の主体的研究に真に生かすとともに、教員と学生が学問を通して交流を深めるよう努める必要があります。なお、履修モデルはあくまでも参考事例であって、研究テーマ・履修科目については、各自の自由な選択を基本に、卒業論文の成果に結びつくよう計画を立ててください。

英米文学専攻では、2004年度から人文学科の発足を機にカリキュラムを充実しました。具体的には、イギリスやアメリカの演劇や映像、オーラルヒストリー、英語学を中心とした英語表現の分野を充実しましたが、これらも英語で表現される文学や文化の一環ですので、英米文学専攻の基本的な教学理念に変わりはありません。したがって旧カリキュラムの学生も一部の科目を除いて新カリキュラムの授業は自由に受講することができます。

2004年度から順次開講される新カリキュラムでは、3年生進級時に「英語文学プログラム」もしくは「英語表現プログラム」を選択することとなりますが、どちらのプログラムを選ぶにせよ履修する科目に制限はありません。これらのプログラムは英米文学専攻でどのような分野を主として研究するかを確認するもので、早期の研究目標の確立という意味があります。そういった意味では、旧カリキュラム(2003年以前入学生)の学生諸君もどのような研究分野を目標とするのか、3年生進級時に目標設定するようにしなければならないことは同じです。

2 1・2回生小集団科目

上記のとおり、「研究入門」と「基礎講読」はそれぞれ1・2回生時の専攻学習の中軸です。小集団授業では、何よりも学生の自主的学習を尊重するため、個人あるいはグループによる発表形式を主としますが、随時担当教員が講義を織り込む場合もあります。「研究入門」では英語で書かれた基礎的なテキストをどう読み、どう分析するかを学び、また各分野に関する基礎知識の修得を通して、英米文学あるいは英語学への導入をはかり、発表・討論の基礎的方法を身につけます。

2回生時の「基礎講読」では、基礎的なテキストの読みを中心としつつ、「研究入門」で身につけた文学・英語学研究の方法や批判能力を一層強化し、さらに多くの文学、英語学に関する基礎概念の修得をめざします。

1・2回生時に身につけた知識と学力、英米文学・英語学への問題意識、および自主的学習能力がその後の学習の基礎になります。その意味で、「研究入門」と「基礎講読」には、積極的に取り組んでほしいと思います。

3 3・4回生小集団科目

「演習」は、英語圏の文学の小説・詩・劇、および英語学などの分野を考慮して編成されています。ここでも

グループ別学習を基本とします。個人発表も卒業論文に進む直前の演習であり、卒論のテーマを具体化するために、担当者による助言・指導なども行います。研究テーマに関係する他専攻・インスティテュートの演習も積極的に履修してください。

「演習」は、卒業論文作成の指導を内容とし、学生各自のテーマに従って、英語圏文学、演劇をそれぞれ中心とする演習、あるいは英語学演習、のいずれかに所属します。英語論文を書くには、かなり書く力が要求されますから、「英文実習」を履修するのが望ましいでしょう。

4 講義諸科目

「英米文学概論」・「英語学概論」(1回生)「英語表現概論」(1回生)「英文学史」・「米文学史」(2回生)は、前述した英米文学の特性・歴史的文化的背景などの英米文学研究や、英語学の基礎知識を学ぶための科目です。

「英米文学特殊講義」～「英語表現特殊講義」は、2回生以上配当科目として、英語文学・文化、あるいは英語学に関して、担当者の専門的な研究にもとづく講義を聞くことになります。したがってテーマは個別的で多岐にわたりますが、それぞれの講義により、特殊問題の文学的あるいは英語学的研究の方法を学ぶ機会としてください。

5 講読科目

英米文学専攻の講読クラスは、英語圏の文学・文化あるいは英語学の文献に親しむとともに、正確で感受性に富んだ原書読解力を養う科目として重要です。毎年、多数のクラスを開講していますから、意欲的に受講して下さい。2004年度以降入学生は1回生後期に「英書講読(Intermediate)」を1クラス、2回生で「英書講読(Advanced)」を2クラス受講します。2003年度以前入学生は、2回生で英米文学講読もしくは英語学講読を2クラス受講します。

隣接分野の文献の読み方に習熟することをめざす人は、積極的にインスティテュートの講読科目も履修してください。

6 英会話・英作文法など

話し聴き書く力をつけるために、2回生時に「英会話」・「英作文法」を配置し、2004年度以降入学生は「英作文法」を、2003年度以前入学生は「英会話」・「英作文法」両方を必修としています。これらの実技的語学力は、それ自体必要であるとともに、原書読解力の基礎となります。3・4回生用に開講する「英文実習」は、さらに高度な書く力を養成することを目的とします。この科目は必修科目や登録必修科目ではありませんが、卒業論文を英語で書く予定の者は積極的に受講してください。

なお、外国語学力の強化に備えて、第1・第2外国語には特別の力を注ぐべきです。副専攻の英語コミュニケーションコースや、イノベーション・プログラムの英語アドヴァンスト・プログラムも履修するようにしてください。

7 人文科学総合講座

専門科目の学修を深めるためには視野の拡大が必要です。その意味で、表に掲げた科目をできるだけ多く受講することを求めます。

8 テーマリサーチ型ゼミナール

テーマリサーチ型ゼミナールは、2003年度からスタートした、文学部が擁する従来の枠組みでは捉えきれない人文学のあらたな分野やテーマ、アプローチを、ゼミ形式で大胆に実践していく、まったく新しい形態のゼミナールです。21世紀の「知」のグローバル化を目指して、人文学に共通する普遍的なテーマ、特定地域を多面的にリサーチするテーマ、現在進行形のタイムリーなテーマ、新世紀の社会に直結する実践、実習的テーマなど、現代社会が人文学に求める革新的テーマを設定します。また、テーマリサーチ型ゼミナールでは革新的・斬新なテーマを追求するためにも、常にゼミテーマを見つめ直しています。

3回生のゼミ選択の際には、卒業時（4回生）にどのようなテーマで研究をし、卒業論文執筆をしたいかといった事を考え、ゼミを選択します。その際、自専攻のゼミ、テーマリサーチ型ゼミナールといった選択肢の中で自分に適するゼミを選んでください。

テーマリサーチ型ゼミナールでどのようなテーマのゼミが開講されているのかはシラバスで確認をして頂きたいと思いますが、以下に2005年度、3回生ゼミのいくつかを記しますので是非参考にしてください。

2005年度3回生ゼミテーマ 例)

他者問題と文化理解、文化としての「移動」2、京都から発信する京都文化学、辞書をつくる、ECOTOURISMエコロジーの旅2、

9 研究入門

(1) 研究入門および自主ゼミについて

(a) 研究入門について

- ・研究入門は、1回生時の専攻学習の中軸となる小集団授業です。

小集団授業では、何よりも学生の自主的学習を尊重するため、個人あるいはグループによる発表を行うことがあります。もちろん担当教員が講義を行うこともあります。

研究入門では英語で書かれた基礎的なテキストを、どう読み、どう分析するかを学び、また各分野に関する基礎知識の修得を通して、英語文学あるいは英語学への導入をはかり、発表・討論の基礎的方法を身につけます。

- ・上に述べたことは、あくまで最大公約数的な一般論であって、担当教員やその専門分野などによって実際の研究入門の内容はある程度異なりますが、これはむしろ自然なことと言えます。

重要なことは、将来どのような分野を専攻するにせよ、すべての基礎となる英語の学力をしっかりと身につけることです。英語の学力にもとづいていなければ、何をやってもそれは「砂の上に家を建てる」(Matt. 7:26)のようなものです。新入生の諸君は、特にこのことに留意してください。

- ・2004年度から1回生時に「リテラシー入門」科目が設置されています。

この科目では、「教わったことを理解する」「自ら調べる」「自分の頭で考える」「これらを表現し、読み手に伝える」技術の修得を目指しますが、研究入門クラスでも英語文学や英語学に関するレポートを書く訓練をします。これは文学部教学の到達点である卒業論文の基礎となるものです。

(b) 自主ゼミについて

自主ゼミは専門小集団授業を補うものであり、学生の自主的で、集団的な学習の場として重要な意義をもっています。例えば、グループで(7)で述べる共同研究室を利用して、共同研究、読書会、研究発表などを行うことができます。自主ゼミの活動は、施設貸与や資料作成費用の補助などを受けることができます。詳細は「[\[5\] 自主ゼミ援助制度について](#)」をご覧ください。

(c) 具体的な研究発表、自主ゼミ活動等については担当教員に相談すること。

(2) レジюме・資料の作り方

- ・ここでいう「レジюме」「ハンドアウト」という言い方をすることもある）とは、研究発表などの内容（概要）

をまとめたもの、という意味です。問題となる箇所を引用であることを明記して原作や研究書から引用することもあります。

- ・レジュメの内容・形式は、英米文学と英語学とでは大きく異なります。同じ文学でもジャンル（詩、小説、戯曲など）によっても異なりますし、もちろんテーマ（発表内容）によっても異なります。
- ・以下にレジュメに含まれる項目の例を、（a）詩の場合、（b）小説の場合、（c）戯曲の場合に分けて示します。いずれの場合においても、（1）発表のテーマ（論点、課題等）をはっきりさせること、（2）実証的、客観的に論証すること、（3）結論をはっきりさせることが重要です。このことは次に述べるレポート・小論文にもそのままあてはまります。なお、テーマ（論点、課題等）は担当教員から指定される場合もあるし、自分で見つけなければならない場合もあります。

（a）詩の場合

- （1）発表のテーマ（課題）
- （2）全訳、詩的技巧（構成、表現、ことば、リズム等） 作品（詩）のテーマの解説、作者と時代背景、批評史など
- （3）結論

（b）小説の場合

- （1）発表のテーマ（課題）
- （2）粗筋、構成、表現、作品（小説）のテーマの解説、作者と時代背景、批評史など
- （3）結論

（c）戯曲の場合

- （1）発表のテーマ（課題）
- （2）内容、構成、作品（戯曲）のテーマの解説、表現、劇的技巧、作者と時代背景、上演史、批評史など
- （3）結論

（d）英語学の場合

- （1）発表のテーマ（課題）
- （2）テーマ、資料（例文など）、関連文献、他の構文との比較、日本語を含めた他の言語との比較など
- （3）結論

- ・以上の項目はあくまで一つの例にすぎません。

実際には担当教員と相談すること。

- ・次に、小説で、一つの章を発表対象とした場合のレジュメの例を示しますが、これはあくまで、口頭で発表することを前提とした一つの例にすぎません。（したがって、この見本を見ただけでは内容は理解できません。）担当教員とよく相談し、作成してください。

<レジュメ（ハンドアウト）見本>

[番号、名前] 1623010000-0 立命 花子
[章] E. M. Forster, <i>Howards End</i> , Chapter I
[章のタイトル] 章の内容（あらすじ）を1～3行程度で要約する。 Helen から Margaret への3通の手紙。 Helen と Paul が恋におちる。
[梗概] 章の内容（あらすじ） (19-20) Helen's first letter (19) Howards End の描写 a very big wych-elm →重要な（象徴的な）役割をはたすことになる。 (20) Mrs Wilcox, Charles, Henry, Evie の描写

Mrs Wilcox だけがくしゃみをしない (hay fever にかかっていない)

⇒彼女だけが the Wilcoxes のなかで例外的人物。

彼女だけが草、花、田園、自然と結びつけられている。

(20-21) Helen's second letter

Helen は the Schlegels とは異質な the Wilcoxes に魅力を感じている。

Helen は women's suffrage, equality に関して Henry にやり込められてしまうが、むしろそのことを楽しんでいる。

(21) Helen's third letter

Paul and I are in love.

[コメント] 問題点、注意すべき点、気づいたこと等。

・物語は *Howards End* の描写ではじまる。

⇒この建物の重要性を示唆している。

・Paul and I are in love. ⇒plot (story, action) の始まり。

⇒Schlegel 的世界 (価値観) と Wilcox 的世界 (価値観) の衝突、

結びつきがこの小説のテーマ →Only connect!

[今後の検討課題、問題点等]

・*Howards End*, a wych-elm の象徴性に注目すること。

[参考文献] 文献 (研究書等) を利用した場合は、参考文献として明記すること。

近藤いね子 (編) 『フォースター』 研究社, 1967.

Trilling, Lionel. *E. M. Forster*. Hogarth, 1944.

(3) レポート・論文の書き方

・ここでいう「レポート」とは、「小論文」(paper あるいは term paper) のことです。

・英米文学関係のレポート・論文で特に注意しなければならないことは、漠然と作品のあら筋や感想を書いただけではレポート・論文にはならないということです。さきに述べたように、短くても論文である以上、テーマ (論題、論点) があり、実証的、客観的に論証がなされ、結論がなければなりません。

・内容と同時に書式にも注意しなければなりません。

いくら内容がよくても、論文には論文の書式があり、それにしがっていなければ論文とは言えません。以下に、ごく基本的な論文の書式を記します。

(a) 日本語 (原稿用紙) の場合 (ワープロもこれに準じる。)

・段落のはじめは 1 マスあける。

・句読点、かっこ類は原則として 1 マスにする。ダッシュは 2 マスにする。

・句読点、かっこ類が行のはじめにくるときは、前行の最後のマス目に入れる。

・英語は 1 マスに 2 文字が基準である。(読みやすいようにすること。)

・書名は『 』で、詩、短編小説、論文などの題は「 」でくくる。

・自分の文と引用文を区別し、出典を明記すること。

短い引用文 (3 行以下) は文中に入れる。日本語の場合は「 」でくくり、英語の場合は “ ” でくくる。

長い引用文 (4 行以上) の場合は、引用文を独立させる。

直接引用はしないが参考書を参照した場合でも、出典を明記すること。

(b) 英語の場合

・パラグラフのはじめは通例 5 文字分スペースをあける (indent する)。日本語のように 1 文字下げるのではない。

・単語を 2 行に分ける場合は、単語を切っていい場所 (分節) に注意すること。辞書で確認すること。

・書名はイタリック (斜字体) で書くかアンダーラインを引く。

詩、短編小説、論文などの題は “ ” でくくる。

・punctuation marks と space の関係に注意すること。

Comma (,), Colon (:) のあと → 1 スペースあける。

ただし数字の単位の後にはスペースをあげない。

Period (文の終わり) (.), Exclamation Mark (!),

Interrogation Mark (?) のあと → 原則として2スペースあける。

- ・自分の文と引用文を区別し、出典を明記すること。

短い引用文 (3行以下) は文中に入れ、引用文を “ ” でくくる。

長い引用文 (4行以上) の場合は、引用文を独立させる。

参照した場合も、出典を明記すること。

- ・論文の書式の詳細 (引用のしかた、注のつけ方、参考文献の書き方など) については、(4)(a) に記載されている文献を参考にしたり、担当教員に相談すること。『立命館英米文学』、『学生論集』、学会誌、あるいは研究書などに掲載された論文を数多く読むことは有益です。内容においても形式においても、論文とはどういうものかが分かるはずです。手引き書としては『MLA英語論文の手引き』(北星堂書店) を参照してください。

なお、卒業論文の書式については、⑨ 卒業論文の項を参照のこと。

(4) 参考書 (入門用)

(a) レポート・論文の書き方

「レポート・論文の書き方」の類の本はきわめて多数あります。ここでは英米文学関係と英語論文の書式・書き方に限って紹介します。

- ・論文 (特に英米文学関係) の書式・書き方

鳥居次好・宇山直亮『英語論文とレポートの書き方』(英潮社)

渡部昇一 (他) 『論文・レポートの書き方』(スタンダード英語講座 8)(大修館書店)

木羽木伸明『卒論を書こう』(三修社)

小野俊太郎『レポート・卒論の攻略ガイドブック [英米文学編]』(松柏社)

- ・英語論文の書式・書き方

J・ジバルディ他編著、原田敬一訳編『MLA英語論文の手引き』(北星堂)

トラウビアン著、高橋作太郎訳『英語論文の書き方』(研究社)

アンドルー・アーマー他著『アカデミックライティング応用編』(慶応義塾大学出版会)

ジョン・スウェイルズ/クリスティン・フィーク著 御手洗 靖 (訳)

『効果的な英語論文を書く』(大修館書店)

樋口昌幸『英語論文表現事典』(北星堂)

崎村耕二『英語論文でよく使う表現』(創元社)

迫村純男 (訳) 『英語論文に使う表現文例集』(ナツメ社)

加藤恭子、ヴェネッサ・ハーディ『英語小論文の書き方』(講談社現代新書)

(b) 辞典

- ・英英辞典

Oxford English Dictionary

Concise Oxford Dictionary of Current English

Webster's Third New International Dictionary

Longman Dictionary of Contemporary English

Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English

『コウビルド英英辞典』(桐原書店)

- ・英和・和英辞典

『研究社新英和大辞典』(研究社)

『小学館ランダムハウス英和大辞典』(小学館)

『リーダーズ英和辞典』(研究社)
『ジーニアス英和辞典』(大修館書店)
『プログレッシブ英和中辞典』(小学館)
『研究社新和英大辞典』(研究社)

・その他の辞典・事典

『新編英和活用大辞典』(研究社)
『新クラウン英語熟語辞典』(三省堂)
『固有名詞英語発音辞典』(三省堂)
『英語名句事典』(大修館書店)

辞書はすべて最新の版(edition)

C D - R O M版、電子ブック、電子辞書があるものもある。

(c) その他

『英文科学生必携ハンドブック』(研究社)
『大学生の英語学習ハンドブック』(研究社)

(5) 参考書(専門的)

(a) 英米文学史

川崎寿彦 『イギリス文学史』(成美堂)
斎藤勇 『イギリス文学史』改訂増補第5版(研究社)
サンプソン, 平井正穂監訳 『ケンブリッジ版イギリス文学史』全8巻(研究社)
エモリー・エリオット編 『コロンビア米文学史』(山口書店)
福原麟太郎・西川正身監修 『英米文学史講座』全12巻, 別冊1(研究社)
加納秀夫他編 『講座英米文学史』全12巻(大修館書店)
亀井俊介 『アメリカ文学史講義』全3巻(南雲堂)
大橋健三郎他編 『シンポジウム英米文学』全8巻(学生社)

(b) 辞典・事典

斎藤勇他編「英米文学辞典」第3版,(研究社)
The Oxford Companion to English Literature
The Oxford Companion to American Literature
Benet's Reader's Encyclopedia of American Literature

(c) 作家・作品別シリーズ, その他

「20世紀英米文学案内」(研究社)
「講座イギリス文学作品論」(英潮社)
「英文学ハンドブック 作家と作品」(研究社)
「アメリカ古典文庫」全23巻(研究社)
日本イギリス文学・文化研究所編 『イギリス文学作品ガイド』(荒地出版社)
日本アメリカ文学・文化研究所編 『アメリカ文学作品ガイド』(荒地出版社)
小野寺健(他) 『英米文学で何を読むか』(研究社)

(d) 文学理論

ラマーン・セルデン著, 栗原 裕(訳) 『ガイドブック 現代文学理論』(大修館書店)
岡本康正(他編) 『現代の批評理論』1, 2, 3(研究社出版)
川口喬一 『小説の解釈戦略 - 『荒が丘』を読む』(福武書店)

テリー・イーグルトン 『文学とは何か』(岩波書店)
E・ショーウォーター 『新フェミニズム批評』(岩波書店)
『女性自身の文学』(みすず書房)

(e) 文学理論・批評用語辞典

川口喬一, 岡本康正(編) 『最新文学批評用語辞典』(研究社)
ジョゼフ・チルダース(他編) 杉野健太郎(他訳)
『コロンビア大学現代文学・文化批評用語辞典』(松柏社)
福原麟太郎・吉田正俊編 『文学要語辞典』改訂増補版(研究社)
Hawthorn, Jeremy. *A Glossary of Contemporary Literary Theory*. (Arnold)

(f) 英語学

The Oxford Companion to Language
International Encyclopedia of Linguistics 1-4
「日英語対照研究シリーズ」全7巻(くろしお出版)
「日英語対照による英語学演習シリーズ」全8巻(くろしお出版)
「日英語比較選書」全10巻(研究社)
「現代の英語学シリーズ」全10巻(開拓社)
「英語学コース」全4巻(大修館書店)
「英語学モノグラフシリーズ」全21巻(研究社)

(6) 雑誌

『英語青年』(研究社)
『英語教育』(大修館書店)
『新英語教育』(三友社出版)
『現代英語教育』(研究社)
『英語展望』(英語教育協議会)
『時事英語研究』(研究社)
『言語』(大修館書店)
『立命館英米文学』(立命館英米文学会)
Active English (アルク)
English Journal (アルク)
English Network (アルク)

・(4)～(6)の文献はあくまで一般的なものです。詳細は担当者に相談してください。

(7) 共同研究室の利用について

英米文学専攻共同研究室の利用にあたっては、以下の点に留意してください。

- ・共同研究室は、英米文学専攻の教員・院生・学生が専攻学問の自主的共同研究と学習をおこなうための施設であって、辞書類の利用、サブゼミ活動、小グループ読書会などのほか、院生の研究報告、卒業論文の試問、演習にも使用される。利用にあたっては、研究施設にふさわしい節度を守ること。
- ・共同研究室の鍵は事務室で学生証と引き換えに受け取り、利用後ただちに事務室に返還すること。鍵を持ち歩くことや又貸しは認めない。
- ・共同研究室備付けの図書は、複写する場合を除き、禁帯出とする。複写の際も終わり次第直ちにもとにもどすこと。
- ・掲示板以外の場所に張紙をしないなど、研究室内外の美化にとめること。また研究室内での放談、飲食など、研究・学習の妨げとなる行為をつつしむこと。
- ・閉室にあたっては、(1) 紙屑・ゴミ類の処理、机・椅子の整頓(2) 電源(特にエアコンのスイッチ)を切ること(3) 窓および出入り口の施錠、の3点を確認し、責任をもって処理すること。

- ・研究室内は禁煙。

(8) T A ・ 助手について

T A (Teaching Assistant) ・ 助手にはさまざまな業務内容がありますが、学部学生に関係するものとしては以下のものがあります。

- ・ 授業の補助
(特に T A はリテラシー入門で提出するレポートを回収し、添削することになっています。)
 - ・ 学部学生の教学の補助
 - ・ 学部学生の自主的学習活動への指導・援助
 - ・ 卒業論文作成の助言と補助
- ・ T A は主に大学院博士課程前期課程の大学院生、助手は大学院博士課程後期課程の大学院生です。
 - ・ T A ・ 助手は清心館 3 階の英米文学専攻共同研究室 (共研) に決められた時間に勤務しています。(勤務時間割表参照)
 - ・ 学習に関することをはじめ、何か疑問がありましたら遠慮なく質問してください。

10 卒業論文

卒業論文は 4 年間の学習の総仕上げであり、その作成に直接に取り組むのは 4 回生になってからですが、最近では就職活動にかなりの時間を割くことを強いられる場合もあり、できるだけ早くからテーマを絞って準備を始めることが望まれます。

すぐれた論文をめざすには、水準の高さを支える裾野の広がりが必要であり、低回生時から数多い種類の英語のテキストに接し、読解力を高めることが、卒業論文の出来不出来を決定します。遅くとも 3 回生終了時にはテーマを確定し、文献収集にも取り掛かってください。

卒業論文の指導は「演習」の授業でおこないますが、必要な文献は、基本的なものを自分で揃えと同時に図書館および文学部の文献資料室を積極的に利用してください。

《注》 卒業論文の対象となる文学作品は、原作が英語で書かれているものです。日本文学、フランス文学、ドイツ文学等の英語翻訳版は原則として対象となりません。

また、英語学の卒業論文は、英語を主たる研究対象とするものでなければなりませんので、十分に注意してください。

英米文学専攻「卒業論文」の体裁について

本文の体裁	A 4 判白紙 (縦長) 原則としてワープロを使うこと
縦書・横書の指定	横書
文字数に関する指定	1 行あたりの文字数 : 40 字 1 頁あたりの行数 : 35 行
枚数等に関する指定	9 枚以上 15 枚以下 英文論文の場合、A 4 用紙横書、ダブルスペースで 1 頁 25 行でタイプ、15 枚以上 30 枚以下
その他の注意	目次を巻頭に付す。注は巻末にまとめて掲げること。つづいて参考文献を巻末に付す。
表紙等に関する体裁	フラットファイル (色指定なし)
大きさ	A 4
綴じ辺	短辺綴じ (上辺綴じ)
題目シール	指定なし 表紙に題目、学生証番号、氏名を任意の方法で記入

《卒業論文作成の手引き》

はじめに

以下は卒業論文のための手引きとして、

- 1．日程ときまり
- 2．論文叙述の形式
- 3．用紙の使い方・表記の方法
- 4．英文論文
- 5．付 録

の順で詳細を記し、論文作成への便宜をはかるものです。

1．日程ときまり

(1) 卒業論文題目の提出

毎年所定の期間に文学部事務室に提出します。文学作品を対象とする場合、取り上げる作家名および作品名まで記入すること。詳細については事務室の掲示に従うこと。届け出用紙は事務室所定のものを用いてください。以後の変更は原則として認めません。

(2) 審査委員

原則として2名の教員が審査にあたります。うち1名は「演習II」の担当教員ですが、他の1名は後期に発表されます。

(3) 論文の提出

毎年12月の指定された日の午後5時までに指定された場所へ2部提出します。掲示される締め切り日時を確認し厳守すること。特にワープロ、パソコンによる作成の場合、機器やプリンター等の故障によって提出できなかったなどは一切理由にならないので、余裕を持って完成させるよう心がけてください。

(4) 口頭試問

提出された論文について、翌年1月下旬から2月中旬に行われます。その際取り上げた作品の使用原書、および論文のコピーを必ず持参すること。口頭試問は、提出された論文を公正に審査し的確な評価を下すのに不可欠の要件となるものですから、指定された日時に必ず出席すること。試問期間中の海外旅行、ホームステイなどは（語学研修を目的とするものも含めて）認めません。

2. 論文叙述の形式

(1) 論文題目

12月の提出時に、確定した論文題目を以下の要領で表紙に記します。

例（和文）

2005年度卒業論文 <u>The Grapes of Wrath</u> 研究 —Ma の役割を中心に 学生番号 氏名	2005年度卒業論文 John Keats 研究 “ To Autumn ” の主題 学生番号 氏名
---	---

< 注意事項 >

和文論文の場合、題目に含まれる作家名・作品名を付します（アンダーラインかイタリック体で表記）。作中人物名は例にならって英語で書いてください。

例（英文）

Functions of the Fool in <u>King Lear</u> A Thesis Presented to The Faculty of the Department of English and American Literature Ritsumeikan University In Partial Fulfillment of the Requirements for the Degree of Bachelor of Arts by Megumi Amano 1623 × × × × × - × December 2005

(2) 目 次

巻頭に章分けして目次をつけます。原則として各章にタイトルをつけます。

(3) 論文の構成

論文の構成は多様であり、ひとことでは言い表せません。付録に紹介されている文献や、『立命館文学』、『立命館英米文学』、その他国内外の学術雑誌に収められている論文を日ごろ読み慣らし、参考にするのがよいでしょう。

論題の提示、その展開、そして結論、少なくともこれら3つの部分は、どのような論文にも含まれているといえます。生き生きとした問題意識に根ざし、事実に基づいた論証がなされるべきです。

(4) 引用と注

和文論文においては、英文の書物（作品・研究書）からの引用は日本語に自訳して本文に入れ、原文を注に示します。ただし英語表現の細かい部分を論じようとするときなどは、原文のままで本文中に引用する場合もあるでしょう。その時は自訳を注にして記します。既訳を参照した場合はその旨注に明記してください。

注は番号順に巻末に付します。注には引用の出所を明記すること（著者名、書名、出版地、出版社、出版年、頁）。

劇作品からの引用の出所は何幕何場とし、詩劇であれば行数も示します。詩作品からの引用の場合は行数またはスタンザ数とスタンザ内での行数を示します。長詩では巻・編名などと共に行数を示します（すべて算用数字を使用）。

他人の説を引用あるいは参照した時は、下の例のように注によって出所を明示しなければなりません。

例) 雑誌論文等の引用注の仕方

Sue K. Tester, “ The Uses of the Word Lee in Sir Gawain and the Green Knight, ”
Neophilologue 54 2 (1970) : 184-90.

注に示す著者名は上記のように family name が後に来るように記します。

(5) 参考文献表

巻末に参考文献表をつけます。そこには、扱った作品名と使用した版を記し、ついで引用した参考文献を列挙します。引用はしていないが、考え方などを全体として学んだ書物があれば、その旨を明記します。

例)

使用テキスト

Woolf, Virginia. Mrs. Dalloway. London: Hogarth, 1925.

引用文献

Daiches, David, Virginia Woolf. New York: New Directions, 1942.

Foster, E. M. Virginia Woolf 1942. Two Cheers for Democracy. London: Edward Arnold, 1951.

次の書物からは引用はしなかったが、小説全般の読み方について学ぶところが多かった。

Forster, E. M. Aspects of the Novel. 1927. New York : Penguin, 1962.

* 参考文献表では、著者名はfamily nameを先に書き、著者名をアルファベット順に並べます。また各項目で2行目までかかる場合は、上記のTwo Cheers for Democracy の（空白部分の）例にあるように、2行目より半角5文字右によせて書きます。

* 詳細は最新の『MLA英語論文の手引き』（北星堂書店）を参照してください。

* 英語学での引用・注・参考文献(4)(5)の表示は、文学の場合と異なります。詳しくは演習Ⅰ・Ⅱで説明します。

3．用紙の使い方・表記の方法

- (1) 書き出しおよび改行の際は、必ず最初の1字分をあけます。
- (2) 行頭に符号やくりかえし記号(々)を据えてはいけません。文の終止符号が行末にきた場合は行末の文字と一緒に書き込みます。
- (3) 英文は半角とします。
- (4) 行末における英字の記入については、音節の区切り(辞書で確かめること)に注意してください。
- (5) 長い引用(3行以上)はその前後に空白の行を設け、本文より全体を1字分ずらせて書いてください。
- (6) 注番号は、最後の文字の右上に書きます。
- (7) 引用の際、中略するとき、和文では「……」または「—(中略)—」記号を、英文では“...”を用います。
- (8) 新しい章は4行あけて始めます。

4．英文論文

英米文学専攻の学生として、卒業論文を英語で書くことは大いに望ましいことです。そのためには4回生までに英文論文をできるだけ多く読み、「英文実習」を受講するなどして、正しい英文を書く力を十分つけておくことが前提となります。英文で書く場合でも、対象とする作品を精読して、正しく理解していることが肝要であるのは和文論文の全く同じです。書くことに自信をもっている、下書きおよび清書に十分な時間の余裕を置くことが絶対に必要な条件となります。

なお、英文論文には、本文の書き方について和文の論文の場合とはちがった形式や約束があるので、市販の「英文論文の書き方」類(付録参照)を参考にすると同時に、「演習II」担当教員に早くから助言、指導をもとめてください。

5．付 録

一般的参考文献

作品・作家・文学史を調べるに当たり、常に不可欠のものは、辞書および一般的参考文献です。どういう場合にどのような書物を見ればよいかという基礎的な知識は、簡単なようで実はなかなか身につけません。以下辞書を中心に、専攻および学部備えてあるもののうちから、一般的なものをとりあげて紹介します。なお、個別の作家や作品に関する専門書は、学部の文献資料室にあるので利用してください。

《注意》

以下にあげる書物の末尾に(文献)と記されているものは文献資料室に、(共)と記されているものは共同研究室にあることを示します。(両)は上記2室にあるの意味です。無印のものは、必要に応じて自分で備えてください。

なお、著名なものがほとんどであるので、編者名、出版社名を省くなど、表記法は略式にしています。

1．辞 書

(1) 一般的なもの

Pocket Oxford Dictionary (共)
Concise Oxford Dictionary (共)
Shorter Oxford English Dictionary (両)
New English Dictionary 12 vols. and Supplement (共)
Compact Edition of Oxford English Dictionary, 2 vols. (共)
Oxford English Dictionary, 2nd. Edition (文献)
Oxford Illustrated Dictionary (両)
American College Dictionary (両)
Webster's New World Dictionary (共)
Webster's Third New International Dictionary (両)
Webster's New Twentieth Century Dictionary (共)
Dictionary of American English, 4 vols. (文献)

- Longman Dictionary of Contemporary English* (両)
Idiomatic and Syntactic English Dictionary (共)
Shogakukan Random House English-Japanese Dictionary (共)
Kenkyusha's New English-Japanese Dictionary (両)
Everyman's Encyclopaedia, 12 vols. (共)
Encyclopaedia Britannica, 30 vols. (共)
Encyclopaedia Americana, 30 vols. (共)
I-See-All: Picture Encyclopaedia, 5 vols. (共)
- (2) 英文を書くためのもの
Kenkyusha's New Japanese-English Dictionary (共)
Kenkyusha's New Dictionary of English Collocations (両)
Basic English Writers' Japanese-English Wordbook (共)
- (3) 方言・俗語
English Dialect Dictionary, 6 vols. (文献)
Dictionary of American Slang (両)
Dictionary of Americanisms, 2 vols. (文献)
The American Thesaurus of Slang (文献)
- (4) 諺・引用・故事
Oxford Dictionary of English Proverbs (共)
Dictionary of American Proverbs and Proverbial Phrases (共)
Kenkyusha's Dictionary of English Quotations (共)
Brewer's Dictionary of Phrase and Fable (共)
英米故事伝説事典 (共)
- (5) 作家・作品・固有名詞
Concise Universal Biography (文献)
Oxford Companion to English Literature (両)
Oxford Companion to American Literature (両)
The Reader's Encyclopaedia of English American Literature (文献)
Twentieth Century Authors (共)
Concise Encyclopaedia of English and American Poets and Poetry (共)
Dictionary of National Biography, 2 vols. (文献)
Century Encyclopaedia of Names, 3 vols. (共)
Webster's Dictionary of Proper Names (共)
- (6) その他
Oxford Classical Dictionary (共)
Oxford Companion to Classical Literature (文献)
Kenkyusha's Dictionary of English Linguistics and Philology (共)
Seibido's Dictionary of English Linguistics
キリスト教大事典 (共)
英文学風物誌 (文献)
英語歳時記 5 巻 (共)
英文法シリーズ 25 冊 (共)
英語教授法事典 (共)
ギリシャ、ラテン、独、仏、伊、露、各語の辞典 (共)
シェイクスピアはじめ各詩人の Concordance (文献)
- (7) 永嶋大典『英米の辞書』(研究社)、加藤祥造『英語の辞書の話』(講談社)、佐藤弘『英語辞書の知識』(八潮出版) などを読み、辞書の種類や特徴を学ぶことによって、辞書利用の効果が高まるであろう。

2. 参 考 書

研究社 英米文学史講座 13巻（文献）
大修館 講座英米文学史 6巻（文献）
研究社 20世紀英米文学案内 19冊（両）
研究社 英文学ハンドブック「作家と作品」 70冊
泰文堂 アメリカ小説研究（続刊中）

The Critical Heritage（文献）

Twayne's United States Authors Series（文献）

Twayne's English Authors Series（文献）

Twentieth Century Interpretations（文献）

Twentieth Century Views（文献）

Writers and Their Work（文献）

大塚高信・中島文雄（編）. 1982. 『新英語学辞典』研究社

荒木一雄・安井稔（編）. 1992. 『現代英文法辞典』三省堂

安井稔（編）. 1987. 『例解 現代英文法事典』大修館

小西友七（編）. 1980. 『英語基本動詞辞典』研究社

——. 1987. 『英語基本形容詞・副詞辞典』研究社

『英語学大系』（全15巻）大修館

『新英文法選書』（全12巻）

『現代の英文法』（全12巻）研究社

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985.

A Comprehensive Grammar of the English Language. Longman Quirk, R. and S. Greenbaum. 1973. *A University Grammar of English*. Longman

『英語青年』研究社

『言語』大修館

『英語教育』大修館

『日本語学』明治書院

3. 雑誌掲載論文の検索

- (1) 本専攻には和・洋合わせて、148種の学術雑誌が所蔵されています。文献資料室にあるので、卒論作成に役立つ論文類をコピーするなど、積極的に活用してください。
- (2) 自分の卒論のテーマの研究に役立つ論文を検索するには、大学図書館にそのための案内や手引き類が常備されているので、それらを入手して参考してください。「演習 II」担当教員と相談して図書館に申し込めば、ゼミ単位でガイダンスを受けることも出来ます。
- (3) 専攻、文学部、あるいは大学図書館の所蔵していない国内外の雑誌に載っている論文のコピーは、大学図書館一階のレファレンス・カウンターに申し込めば入手可能です。

4. 論文の書き方の手引き

内多 毅『英文学卒業論文ガイド』（英潮社）

米国現代語学文学会監修 原田敬一訳『MLA英語論文の手引』（北星堂）

5. その他の資料、設備

(1) 英米文学テープ・ライブラリー（文献、または図書館1階A. V.ルーム）

(2) パソコン及びワープロ

以上の文献のうち、文献資料室保管のものを利用する時は、同室職員の指示に従ってください。共同研究室は学生の自主的利用にゆだねられているので、以下の規定により利用してください。

なお、学内のパソコンおよびワープロは、規則に従って使用することを厳守してください。

「卒業論文」の提出について

「2005年度卒業論文」の提出締切期限は、
12月20日(火)午後5時とします。＜時間厳守＞

提出の際は、学生証が必要です。
必ず本人が持参してください。事前許可なしで代理提出はできません。
締切時間は厳守してください。遅延提出は一切認められません。
卒業論文の提出の形式が整っていないと受理できないケースもありますので、万端に準備してください。

単なる体調不良や交通機関の延着・機器等の故障・勤務の都合等の理由での提出遅延は、認められません。余裕を持って提出できるように心がけてください。

予測不可能かつ緊急の事態などで、どうしても締め切り前の提出が困難になった場合、**自分で判断せず、必ず事前に文学部事務室に一報**してください。事前連絡・相談があったケースに関してのみ、本人申請書・証明書類を提出の上、教授会の審議を受けた上で提出の延期を許可する場合があります。(全てが許可されるとは限りません。)事前連絡と必要な書類手続の両方が満たされていることが大前提です。事前の連絡がない場合は、事後の対応が不可能になります。

「卒業論文」の提出前に、「**卒業論文題目届**」を文学部事務室に提出することが必要です。「卒業論文題目届」の提出締め切り期限は、

10月6日(木)午後5時とします。

論文審査の主査・副査の発表は、10月下旬から11月上旬とします。各専攻・プログラム共同研究室掲示板に掲示します。

口頭試問の日程は、1月下旬から2月中旬に行います。個人別の日時は、1月中旬頃に各専攻・プログラム共同研究室掲示板に掲示します。

卒業旅行の日程は、口頭試問を避けてください。

卒業論文の形式は、各専攻・プログラムにより異なりますが、以下の形式は共通ですので、必ず守ってください。

卒業論文は、添付資料なども含め、必ず**2部**提出してください。
表紙に論題、氏名、学生証番号などを記載してください。

2005年度卒業論文 「○○ (論題)」 学生証番号、氏名

論題は、事務室に提出した「卒業論文題目届」と全く同一でなければなりません。卒業論文作成中に論題の変更が必要となれば、主査・副査の変更がないか必ず指導教員に確認した上で、事務室で論題変更の手続きを行ってください。テーマ自体が変わるなど、大きな変更は認められません。

主査・副査の名前を記した紙(シールになっています)を、おもて表紙の裏側に貼り付けてください(2部とも)。「主査・副査シール」は文学部事務室で配付しています。主査・副査は10月下旬から11月上旬に共同研究室の掲示板に掲示されていますので、早めに確認してください。

体裁については各専攻の「教学の手引き」に従って作成してください。(専攻によっては体裁の変更指示もあるため、各専攻掲示を確認してください。)

体裁については、各専攻で点検します。したがって、窓口・提出会場で受け付けられた論文

でも、専攻で体裁上の不備が発見された場合は、口頭試問の時点でF評価となることがありますので、注意してください。

2005年度後期 卒業論文に関する日程

日 程	内 容
10月6日(木)午後5時まで	「卒業論文題目届」事務室提出締め切り
10月下旬～11月上旬	主査・副査発表(共同研究室掲示板)
11月28日(月)～12月5日(月)	題目変更期間
12月13日(火)	卒業論文受付開始
12月20日(火)午後5時まで	卒業論文提出締め切り <時間厳守>
1月中旬頃	口頭試問日程発表(共同研究室掲示板)
1月下旬～2月中旬	口頭試問実施

5回生以上の学生で、前期に卒業論文を提出する方の日程

日 程	内 容
4月28日(木)午後5時まで	「卒業論文題目届」事務室提出締め切り
7月1日(金)～7月8日(金)	題目変更期間
7月13日(水)	卒業論文受付開始
7月20日(水)午後5時まで	卒業論文提出締め切り <時間厳守>
7月下旬～8月	口頭試問はこの間に実施します。日程は7月下旬に各専攻・プログラムの共同研究室掲示板に掲示します。

テーマリサーチ型ゼミナールで卒業論文(非卒業論文形式含む)を提出するには

テーマリサーチ型ゼミナール受講学生の皆さんは、従来のような卒業論文提出の形態(卒論形式)もあり得ますが、クラスによっては、そこで制作する卒業論文は従来の専攻のような論文形態によらず、共同で成果物(本の出版等)を仕上げてこれを卒業論文とすることができるという形態(非卒論形式)も認められています。提出期日・提出先・提出方法については、卒論形式か非卒論形式かによって取り扱いが異なります。必ずクラス内で担当教員に、いずれの形式なのかを確認してから作成してください。卒論形式・非卒論形式いずれの場合も「卒業論文・卒業制作テーマ届」(←卒論形式・非卒論形式共通)は全員提出してください。

「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り:10月6日(木)午後5時まで

テーマ届変更期間:11月28日(月)～12月5日(月)

体裁について

卒論形式で制作の場合	文書体裁	字数・書式・用紙の大きさなどはクラス担当者の指示に従うこと
	表紙等に関する体裁	題目、学生証番号、氏名を必ず記載すること
	その他注意	1. 学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類は該当しない。 2. 主査・副査の発表・口頭試問日程等は担当者の指示に従ってください 3. 提出締め切り等の詳細は「テーマリサーチ型ゼミナール・卒論形式で提出する方」を参照してください。
非卒論形式で制作の場合	文書・表紙体裁	体裁については全てクラス担当者の指示に従うこと
	その他注意	1. 制作物(成果物)の提出が不要の場合であっても卒業論文・卒業制作テーマ届を所定の期日までに文学部事務室へ提出してください。 2. 制作物(成果物)の提出が必要な場合、提出期日・提出先・提出方法などは担当教員の指示に従ってください。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会(仮)」を実施することがあります。実施日については、担当教員の指示に従ってください。

テーマリサーチ型ゼミナール「卒論形式」で提出をされる方の提出について

提出に際する諸注意は基本的に前述の「卒業論文」の提出についてに従ってください。ただし、以下点が異なりますので留意してください。

TRSのばあい、「卒業論文題目届」ではなく、「卒業論文・卒業制作テーマ届」の提出が必要です。

論文審査の主査・副査の発表日程は授業内にて指示します。

口頭試問の日程は基本的に1月下旬～2月中旬に行う予定ですが、個人別の日時等は授業内にてお知らせしますので、クラス担当教員の指示に従ってください。文学部共同研究室掲示板に掲示することもあります。

日 程	内 容
10月6日(木) 午後5時まで	「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り
10月下旬～11月上旬	主査・副査発表(担当教員による指示)
11月28日(月)～12月5日(月)	題目変更期間
12月13日(火)	卒業論文受付開始
12月20日(火) 午後5時まで	卒業論文提出締め切り <時間厳守>
1月中旬頃	口頭試問日程発表(担当教員による指示)
1月下旬～2月中旬	口頭試問実施

5回生以上の学生で、前期に卒業論文を提出する方の日程

日 程	内 容
4月28日(木) 午後5時まで	「卒業論文・卒業制作テーマ届」事務室提出締め切り
7月1日(金)～7月8日(金)	題目変更期間
7月13日(水)	卒業論文受付開始
7月20日(水) 午後5時まで	卒業論文提出締め切り <時間厳守>
7月下旬～8月	口頭試問はこの間に実施します。日程は各担当教員に確認してください。



履修方法とユニットプログラム 履修モデル

1 科目一覧

英米文学専攻 1・2 回生

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
概 論	英米文学概論 ・ (各 2) 英語表現概論 (2) 英語学概論 (2)			
文 学 史		英文学史 ・ (各 2) 米文学史 ・ (各 2)		
講 読	* 英書講読 (Intermediate) (2)	* # 英書講読 (Advanced) (2)		
特 殊 講 義		# 英米文学特殊講義 ~ (各 2) # 英語表現特殊講義 ・ (各 2)		
そ の 他		* 英会話 ・ (各 2) * 英作文法 ・ (各 2)	* # 英文実習 (2) * 翻訳実習 (2)	
小 集 団	* 英米文学研究入門 (4): 通年	* 英米文学基礎講読 (4): 通年	英米文学演習 (4): 通年	英米文学演習 (4): 通年 卒業論文 (4): 通年

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。
2. * のついた科目は、英米文学専攻の学生のみが受講できます。
3. # のついた科目は、重複受講ができます。
4. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。

2 履修方法

必修科目 (卒業するために必ず単位を取得しなければならない科目)

	英書講読 (Intermediate) (1回生のみ)	1 科目 2 単位必修
	英書講読 (Advanced) (2回生以上)	2 科目 4 単位必修
	英作文法 ・ (2回生以上)	2 科目 4 単位必修
	英米文学演習 (4回生以上) ゼミナール (テーマリサーチ) (4回生以上)	4 単位選択必修
	卒業論文 (4 回生以上)	4 単位必修

Intermediateを未取得の場合、Advancedを 3 科目 6 単位取得すること。

登録必修科目 (必ず登録・受講しなければならない科目)

	英米文学概論 ・ (1 回生以上)	2 科目 4 単位選択
	英語表現概論 (1 回生以上)	
	英語学概論 (1 回生以上)	
	英文学史 ・ (2 回生以上)	2 科目 4 単位選択
	米文学史 ・ (2 回生以上)	
	英米文学研究入門 (1 回生のみ)	1 科目 4 単位
	英米文学基礎講読 (2 回生のみ)	1 科目 4 単位
	英米文学演習 (3 回生のみ) ゼミナール (テーマリサーチ) (3 回生のみ)	1 科目 4 単位選択

専攻科目以外の登録必修科目

- ・ リテラシー入門 (教養科目: 4 単位) 1 回生通年
- ・ 外国文化講読 (英語) (人文科学総合講座: 4 単位) 3 回生通年

社会人学生のみなさんは、 以外の必修科目、および登録必修科目はありません。ただし、条件の許す限り、上記の必修・登録必修科目は履修してください。

3 科目一覧

英米文学専攻 3 ～ 8 回生

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
概 論	英米文学概論 ・ (各 2) 英語学概論 ・ (各 2)			
文 学 史		英文学史 ・ (各 2) 米文学史 ・ (各 2)		
講 読		【 * # 英米文学講読 (2) 】 【 * # 英語学講読 (2) 】 * # 英書講読 (Advanced) (2)		
特 殊 講 義		# 英米文学特殊講義 ～ (各 2) 【 # 英語学特殊講義 ・ (各 2) 】		
そ の 他	* 英会話 ・ (各 2)	* 英作文法 ・ (各 2)	* # 英文実習 (2)	
小 集 団	* 英米文学研究入門 (4) : 通年	* 英米文学基礎講読 (4) : 通年	英米文学演習 (4) : 通年	英米文学演習 (4) : 通年 * 卒業論文 (4) : 通年

1. 科目名のカッコ内数字は単位数を示します。
2. * のついた科目は、英米文学専攻の学生のみが受講できます。
3. # のついた科目は、重複受講ができます。
4. 下線のついた科目は、その回生でしか受講できません。
5. 2004年度より特殊講義 ～ を 2 回生配当としました。
6. 【 】 のついた科目は開講していません。

4 履修方法

必修科目 (卒業するために必ず単位を取得しなければならない科目)

英米文学講読 英語学講読 (英書講読 (Advanced))	2 科目 4 単位必修
英会話 ・	2 科目 4 単位必修
英作文法 ・	2 科目 4 単位必修
英米文学演習 ゼミナール (テーマリサーチ) *	4 単位選択必修
卒業論文	4 単位必修修

6 回生以上は選択不可

登録必修科目 (必ず登録・受講しなければならない科目)

英米文学概論 ・ 英語学概論 ・ (英語表現概論、英語学概論)	2 科目 4 単位選択
英文学史 ・ 米文学史 ・	2 科目 4 単位選択
英米文学研究入門	1 科目 4 単位
英米文学基礎講読	1 科目 4 単位
英米文学演習 ゼミナール (テーマリサーチ)	1 科目 4 単位選択

専攻科目以外の登録必修科目

- ・ 情報リテラシー (基礎科目 : 2 単位) 1 回生前期
- ・ 外国文化講読 (英語) (人文科学総合講座 : 4 単位) 2 回生通年

3 ～ 5 回生の社会人学生の皆さんは、 以外の必修科目、および登録必修科目はありません。
ただし、条件の許す限り、上記の必修・登録必修科目は履修してください。
6 回生以上の社会人学生の皆さんの必修科目・登録必修科目は、一般学生と同様です。

5 受講登録上の注意

1 回 生

1. 下記の科目は、クラス指定を行っています。クラスは掲示にて発表します。指定されたクラスを本登録してください。

英米文学研究入門、英書講読（Intermediate）、リテラシー入門、外国語科目（第1・第2）

2. その他、1回生担当の登録必修科目を忘れずに登録してください。

2 回 生

1. 下記の必修科目・登録必修科目は、クラス指定を行っています。指定されたクラスを本登録してください。

英語 ・ 第1外国語として英語を選択したみなさんが履修します。1回生終了時に希望調査が行われ、4月にクラス発表が行われます。

英米文学基礎講読 指定されたクラスを登録してください。

2. 下記の科目は予備登録科目です。それぞれ指定された日に予備登録してください（「履修要項」を参照）。予備登録の結果決定したクラスを本登録してください。

英作文法 ・

英会話 ・

英書講読（Advanced）

3 回 生

1. 下記の科目は予備登録科目です。指定された日に予備登録を行ってください。予備登録の結果決定したクラスを本登録してください。

英米文学演習、ゼミナール（テーマリサーチ）* すでに前年度中に予備登録を済ませ許可を受けたクラスを本登録してください。

外国文化講読（英語） 2004年度以降入学生のみ。

4・5回生、昼6～8回生

1. 下記の必修科目は、本年度の登録で卒業見込みができる方のみが受講できます。決定したクラスを本登録してください。

英米文学演習、ゼミナール（テーマリサーチ）* すでに前年度中に予備登録を済ませ許可を受けたクラスを本登録してください。

卒業論文 卒論ゼミと同一のクラスを登録してください。

2. 下記の科目は、本年度の登録で資格取得の見込みができる方のみが受講できます。本登録してください。

（教）教育実習 総合演習と同一のクラスを登録してください。7回生以上は、文学部事務室へ個別相談に来てください。

（芸）博物館実習

* テーマリサーチ型ゼミナールは2001年度以降入学者のみが受講できます。

6 ユニットプログラム

文学部では2004年度より、皆さんの学び方の指針として、ユニットプログラムという考え方を提示することとしました。ユニットプログラムとは、**皆さんの所属する専攻・プログラムの特色を活かした将来像を念頭においたうえで**の学び方・大学生活の過ごし方の指針です。具体的には、専攻・プログラム毎に以下のような3つのユニットを提示します。

総合教養形成型ユニット

所属する専攻・プログラムの教学を中心としつつも、文学部の幅広い学問分野を広く修め、それを活かしてどのような将来像を描けるかを提示します。

専門職養成型ユニット

所属する専攻・プログラムの特色を活かした専門的力量や技能などを形成し、それを活かしてどのような将来像を描けるかを提示します。

研究職養成型ユニット

所属する専攻・プログラムの教学を深く修め、将来、(大学教員などの)研究職を目指す方策を提示します。

また、文学部には10専攻3プログラムがありますので、専攻・プログラムの特性に応じた内容となっています。

そして、これはよく覚えておいて頂きたいのですが、**必ずしもこのユニットの想定する将来像だけが全てではない**、ということです。極端な話をすれば、文学部を卒業して、ロースクールに入って、弁護士になる事だってありえる選択技なのです(実際、司法試験に合格した文学部卒業生は過去にいますし、2004年度より設置されたロースクールは、法学部卒業生以外にも広く門戸を広げています)。皆さんの意欲次第では、どのような道も開けるでしょう。

このようなユニットプログラムを提示する趣旨は、**皆さんが皆さん自身の将来像をよく考えて、それに向かって有意義な(学問やそれ以外も含めた)学生生活が送れるようにしていただくため**です。目指す将来像が明らかになれば、それに向けた学生生活も充実することでしょう。

もちろん大学生活を送っていく中で目指したい将来像が変わることはありえますし、それは全く問題ありません。したがって、**ユニットプログラムは一つを選択すると一つのユニットに所属するといったものではありません**。

今まで述べたように、ここに提示するユニットはあくまでも例示です。これらを参考にして、皆さんが将来を考える一助になるよう願っております。

なお、「ユニットプログラム」は、本専攻を通じて身につく素養や経験を踏まえた卒業後などの想定されるキャリア形成とそのための学生生活の指針であり、「履修モデル」は、卒業論文で取り扱う研究テーマをタイプ別に分類し、その分野で推奨する履修科目を挙げたものです。それぞれの目的は異なっており、混同しないように留意してください。

<英米文学専攻ユニットプログラム>

総合教養養成型ユニット

当専攻でもっとも一般的な選択肢だと思われます。英語力を向上させ、幅広い知識を習得することを目的とする学生が想定されます。具体的には、英語原書、とくに英語文学をしっかり読解できる力と論理的な思考力を培って、卒業論文として説得力のある文章を書くことを最終目的とします。ここで培った能力は社会生活を営むうえでもっとも有益です。専攻科目のみならず、他専攻・インスティテュート開講科目の履修が望ましいですが、英語力をいかした仕事に就くことを望む者あるいは海外留学をめざす者は、英会話・英文実習の履修も望まれます。

本専攻で培った英語力と英語圏文化の理解をベースに、就職先は一般企業、公務員などさまざまなものが予測されます。ホテル・旅行業者などのサービス業、商社、出版社、メーカー、医療関係などにすでに卒業生が多数進出しています。ホテル旅行関連なら地理学専攻の科目(地誌(世界)、・、ツーリズム論など)や世界各地の歴史を講義する科目や、エクステンションセンターの旅行業講座など受講するなど、文学部の中のみならず学内にあるさまざまなプログラムや制度を利用して目標達成に向けて努力してください(エクステンションセンターには公務員、貿易実務などの講座もあります)。留学を希望する者は、留学の目的を考慮しての履修を考えてください。

専門職養成型ユニット

教員志望者(英語)や翻訳家、放送・演劇関係への就職を志望する者に適しています。これらの学生は、早くか

ら計画的な履修が必要です。

教員志望者に関して言えば、とくに専攻科目の教職科目（英会話や英米文学概論など）の履修が必要で、副専攻の英語コミュニケーションコースやイノベーション・プログラムの英語アドヴァンスト・プログラムなどの受講を通じ、英語力の向上に努めてください。さらに、近年、教員採用の際、大学院修士課程修了で得ることができる専修免許を重視するケースも多いため、大学院進学も視野に入れるべきです。海外大学のTESOL（Teaching English to Speakers of Other Languages）コースの進学も、教職につくまでの準備のための選択肢の一つといえます。教職という面では、教育委員会との協定にもとづく学校ボランティアやイノベーション・プログラム「学校教育臨床プログラム」など、さまざまなプログラムへ積極的に参加すべきですが、本学には教職支援センター（尚学館）があるので、大いに活用してください。

翻訳家志望者はどちらのプログラムを選択しても、翻訳実習のみならず、英文実習・英会話、英語文学関係の科目の履修が望ましいでしょう。英書講読（英米文学講読）は、クラスに空きがあれば卒業に必要な単位数以上の受講も可能なので、できる限り、英語文献の講読量を増やすべきです。また、学部と大学院との合同授業もレベルの高い講読の授業が開講されているので、可能なら受講してください。

放送・演劇関係への就職志望者は、英語表現プログラムの履修、そして学際プログラム芸術表象領域開講の科目の履修が望ましいでしょう。また、放送関係では、3回生から可能な他学部受講制度を利用して産業社会学部のメディア関連の履修も良いでしょう。エクステンションセンターではマスコミ対策講座も開設されています。イノベーション・プログラムの「人文系デジタルグラフィック・プログラム」は放送・演劇どちらを目指すにせよ有用なカリキュラムです。さらに、学芸員課程の履修も視野に入れてください。

研究職養成型ユニット

博士課程後期課程まで進学し、研究職につく学生を想定しています。「英語文学プログラム」「英語表現プログラム」のどちらを選択したにせよ、大学院では英語による論文執筆が求められるので、高水準の英語での卒業論文執筆を目指すべきです。進学先は文学研究科本専攻みならず、インスティテュート、言語表現領域、先端総合学術研究科などや、欧米の大学大学院などが考えられます。言語学を研究したい人は、本学の言語教育情報研究科（言語情報コミュニケーションコース）も進学先としてあげられます。

これらの学生は、登録必修である英米文学概論・英語表現概論・英語学概論や英文学史・米文学史等はもちろんのこと、選択する各プログラム（原則として卒論を執筆するゼミのプログラム）の特殊講義や演習と、そして英語での卒論執筆のために必ず、論文作成を目的とした英文実習を履修してください。また学部と大学院の合同授業でレベルの高い講読を受講してください。もちろん幅広い知識習得のため、西洋史専攻など他専攻・インスティテュートの科目の履修が求められます。例えば英米文学を目指す者でも学際プログラム言語文化領域開講の科目、例えばヨーロッパ文学史～など近接する地域の文学を学ぶことは必要です。また、英語表現プログラム選択の学生は学際プログラム芸術表象領域開講の科目、例えば「映像原論」「現代美術論」などの履修が望ましいでしょう。

また、後期課程進学を目指すなら、ドイツ語もしくはフランス語が必要となるので、それらの学習を怠ってはなりません。さらに経済的な余裕があれば海外への留学も積極的に考えてください。

7 履修モデル

2004年度以降入学生

	英語文学プログラム		英語表現プログラム（演劇中心）		英語表現プログラム（英語学中心）	
	英米文学専攻科目	その他科目	英米文学専攻科目	その他科目	英米文学専攻科目	その他科目
1 回 生	英米文学概論 ・ 英語表現概論 英語学概論 英米文学研究入門 英書講読（Intermediate）	リテラシー入門（教養） 言語学 ・（人文） ヨーロッパ史概論（人文） アメリカ史概論（人文） 英語文学（人文） 比較文化論 ・（学際）	英米文学概論 ・ 英語表現概論 英語学概論 英米文学研究入門 英書講読（Intermediate）	リテラシー入門（教養） 映像と表現（教養） 美と芸術の論理（教養） 比較文化論 ・（学際） 映像原論（学際） 民族と文明の美術史（学際） 英語文学（人文）	英米文学概論 ・ 英語表現概論 英語学概論 英米文学研究入門 英書講読（Intermediate）	リテラシー入門（教養） 論理と思考（教養） 社会学入門（教養） 情報科学（教養） 言語学 ・（人文）
2 回 生	英文学史 ・ 米文学史 ・ 英書講読（Advanced） 英米文学特殊講義 ～ 英作文法 ・ 英会話 ・ 英米文学基礎講読	美と芸術の論理（教養） 映像と表現（教養） 文学と社会（教養） 音声学 ・（人文） 神話学 ・（人文） 西洋思想 ・（人文） 西洋史概説 ～（西史） 西洋近代美術史（学際） ラテン語 ・（人文） 音声学 ・（人文）	英文学史 ・ 米文学史 ・ 英書講読（Advanced） 英語表現特殊講義 ・ 英作文法 ・ 英会話 ・ 英米文学基礎講読	色彩論（人文） 視覚芸術（人文） 芸術と社会（人文） 芸術・芸術史（人文） 西洋史概説 ～（西史） 西洋近代美術史（学際） 文化と文化批判 ・（学際） ヨーロッパ文学史 ～（学際） 音声学 ・（人文） 神話学 ・（人文）	英文学史 ・ 米文学史 ・ 英書講読（Advanced） 英語表現特殊講義 ・ 英作文法 ・ 英会話 ・ 英米文学基礎講読	社会言語学 ・（人文） 音声学 ・（人文） ラテン語 ・（人文） ギリシア語 ・（人文） 言語コミュニケーション論（人文） 論理学概論 ・（哲学） 世界の言語（学際）
3 回 生	英書講読（Advanced） 英米文学特殊講義 ～ 英文実習 翻訳実習 英米文学演習（英語文学分野）	キリスト教思想 ・（人文） アジアの文学（人文） 比較文学特論 ・（学際） ヨーロッパ文学史 ～（学際）	英書講読（Advanced） 英語表現特殊講義 ・ 英文実習 翻訳実習 英米文学演習（英語表現分野）	キリスト教思想 ・（人文） 美学・芸術社会学（学際） 映像と社会（学際） 映画史（学際）	英書講読（Advanced） 英語表現特殊講義 ・ 英文実習 翻訳実習 英米文学演習（英語表現分野）	学習・記憶心理学（心理） 言語・思考心理学（心理）
4 回 生	英米文学演習（英語文学分野） 卒業論文		英米文学演習（英語表現分野） 卒業論文		英米文学演習（英語表現分野） 卒業論文	

注）教養科目や人文科学総合講座などは必ずしも配当回生通りに配置していません。履修する回生は、各々の都合に合わせて計画して下さい。

上表はあくまで履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修しても全ての必要単位を取得できるわけではありません。

また、モデル表にある科目の履修セメスターも必ずしも配当セメスター通りとは限りませんので注意してください。皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。

2003年までの入学生

(基：基礎科目、人文：人文科学総合講座科目、哲・心・その他：各専攻科目)

科目区分	モデル1 イギリス文学中心		モデル2 アメリカ文学中心		モデル3 英語学中心	
	英米文学専攻科目	その他科目	英米文学専攻科目	その他科目	英米文学専攻科目	その他科目
1 回 生	英米文学概論 ・ 英語学概論 ・ 研究入門	言語学 ・ (人文) 外国の歴史 ・ (基) 比較文化論 ・ (イ) [比較文化概論 ・ (イ)]	英米文学概論 ・ 英語学概論 ・ 研究入門	言語学 ・ (人文) 外国の歴史 ・ (基) 比較文化論 ・ (イ) [比較文化概論 ・ (イ)]	英語学概論 ・ 英米文学概論 ・ 研究入門	言語学 ・ (人文) 文化人類学 ・ (イ)
2 回 生	英文学史 ・ 米文学史 ・ 英米文学講読(英) 英米文学特殊講義(英) 基礎講読	音声学 ・ (人文) 神話学 ・ (人文) 美と芸術の論理(教養) 映像と表現(教養) 西洋近代美術史(イ)	米文学史 ・ 英文学史 ・ 英米文学講読(米) 英米文学特殊講義(米) 基礎講読	音声学 ・ (人文) 神話学 ・ (人文) 美と芸術の論理(教養) 映像と表現(教養) 西洋近代美術史(イ)	英語学講読 英語学特殊講義 基礎講読	音声学 ・ (人文) 言語コミュニケーション論(人文)
3 回 生	英米文学講読(英) 英米文学講読(英) 英米文学講読(米) 英米文学特殊講義(英) 英米文学特殊講義(米) 英米文学特殊講義 (ネイティブ担当) 英文実習 演習	キリスト教思想 ・ (人文) 比較文学特論 ・ (イ) [比較文学概論 ・ (イ)]	英米文学講読(米) 英米文学講読(米) 英米文学講読(英) 英米文学特殊講義(米) 英米文学特殊講義(英) 英米文学特殊講義 (ネイティブ担当) 英文実習 演習	キリスト教思想 ・ (人文) [比較文学概論 ・ (イ)]	英語学講読 英語学講読 英語学特殊講義 英文実習 演習	社会言語学 ・ (人文) 【認知と言語の人類学(イ)】 (2005年閉講予定)
4 回 生	演習 卒論		演習 卒論		演習 卒論	

注) 教養科目や人文科学総合講座などは必ずしも配当回生通りに配置していません。履修する回生は、各々の都合に合わせて計画して下さい。

上表はあくまで履修モデルです。この通り履修する必要はありませんし、この通り履修しても全ての必要単位を取得できるわけではありません。また、モデル表にある科目の履修セメスターも必ずしも配当セメスター通りとは限りませんので注意してください。皆さんの関心に応じ、他の科目も自由に履修してください。科目によっては閉講となったものもあります。



学修を進めるにあたって

1 文献資料室と共同研究室

文学部には、教員・学生・院生の研究・学修の場として共同研究室と人文系文献資料室が設けられています。文学部教学の大きな目標である専門的知識・技能の養成や、自主的・集团的な学修・研究の充実のために、この二つの場が大きな役割を果たしています。

人文系文献資料室

修学館地階にある文献資料室には、主に文学部の学問・研究に関する専門図書、学会や大学が発行する学術雑誌、各種の資料（歴史学関係の史料を含む）、辞典、図録などが集中的に保管されています。それぞれの専攻・コースやインスティテュートに関する専門図書や資料などは、それぞれの専攻が重点をおいてきた専門分野や収書の方針によって特色をもつものとなっていますが、その中でも特に線装本など貴重な図書や、『立命館文学』との交換で寄贈された学術雑誌など、二度と収書することが至難なものについては、別置されています。しかし大部分の図書は開架閲覧方式がとられていて、書庫に入って図書を検索し、閲覧することができます。文献資料室の書庫は下記のとおり、各専攻関係の図書は次のように配置されています。

書庫A 日本文学・日本史・中国文学・東洋史・製本和雑誌（大学・一般）

書庫B キング・サイズなどの大型資料類

書庫C 漢籍・埋蔵文化財・未製本カレント・明大本・和装本など 書庫Cの図書は閉架請求制です。

書庫D 哲学・心理学・英米文学

書庫E 西洋史・地理学・文化人類学・インスティテュート・地方史・中国雑誌・洋雑誌

研究内容が部分的に重なり、隣接分野となっている専攻間の図書・資料を相互に利用しやすいよう同一書庫に配置しています。それによって広い基礎をもち水準の高い学修研究の発展と、新しい研究課題の発見をが期待できるでしょう。

人文系文献資料室の図書は、全体として専門性の高いものが多く、したがって低回生にとって直接利用できる図書は少なく、広い教養を身につけるための啓蒙書、文学作品、一般の雑誌などについては、中央図書館の利用が望まれます。しかし上回生のレポート作成や卒業論文、修士論文の作成にあたっては、人文系文献資料室に収められた図書の利用が必要となる場合があります。所定の申し込みをすれば、開架閲覧を許していない貴重図書・学術雑誌の閲覧も可能です。

専攻・インスティテュート共同研究室

専攻院生・学生が教員とともに、専攻の学問研究について自主的な共同研究をおこなう場として10専攻およびインスティテュートそれぞれに共同研究室が設けられています。それぞれ違いがありますが、専攻・インスティテュートの教学にとって基本的な辞典などの図書、また演習・講読などのテーマと直接かわりのある専門図書などが置かれています。実験実習的な研究教育が重視されている心理学・地理学・日本史学専攻の考古学コースでは、機器・用具類も充実しており、専用の実験・実習室施設もあります。

これら共同研究室は、大学の休業日（土曜日・日曜日・祝日・夏期の一斉休業日、年末年始など）および授業や卒業論文・修士論文の試問審査など、文学部の教務・事務にかかわって使用制限する場合を除いて、原則として毎日午前9時から午後9時30分まで利用できます。ただし、実際の時間は、専攻によって異なりますので、各専攻の規定に従ってください。共同研究室の運営や利用の仕方および、日常的な運営については、教員・学生・院生の三者で協議することにしており、相互に円滑で節度のある使用を心がけねばなりません。

2 クラスロッカーの使用法について

（1）クラスロッカーについて

クラスロッカーは、研究入門、基礎講読、講読演習、演習などのクラス単位に必要なものを、一時的に保管しておくものです。例えば、研究入門の講義時に欠席者用レジュメなどを保管したりするために利用するものです。したがって、個人用の荷物を保管するようなことは禁止をしています。また、基本的に、カギをしめないで使用していただきますので、紛失しては困るものなどは収納しないようにしてください。

(2) 使用の手順

1. 文学部事務室へ、クラス単位であらかじめ利用の申請し、使用するロッカーの場所を決めます。

申請は随時受け付けますので、必要がある場合は、文学部事務室で手続きして下さい。

オリエンテーション期間の「オリター懇談会」で選出する「クラス代表者」が、クラスを代表して手続きをするようにしてください。

2. 使用できる期間内は、必ず指定のロッカーを使用し、クラス単位で管理してください。

3. 使用期限が来れば、クラス単位で荷物の撤収を行ってください。

(3) 注意事項

利用上以下の点に注意して下さい。

クラスロッカーは、事前の申請に基づいてクラス番号を付番し、クラス指定しますので、確認して下さい。

クラスロッカーは1クラス1ロッカーではありません。

ロッカーは整理整頓に心がけて下さい。複数クラスで利用をお願いした場合、必ず物品のクラス間違いがないようにして下さい。

物置ではありませんから、ロッカーに保管するのにふさわしくないものは入れないで下さい。また、施錠しませんので、貴重品など紛失しては困るものは入れないで下さい。

万一紛失・盗難にあった場合、大学は責任を負いませんので注意してください。

サークルなどの団体が無断で使用した場合は、速やかに撤去します。

クラスロッカーの利用期限は、翌年3月15日（休日の場合はその前日）までです。ロッカーにはいつている物はすべて各クラスの責任で移動して下さい。翌年3月16日以降は、文学部事務室の責任で物品の廃棄をおこないます。

3 セミナーハウスの正課利用の手引き

(1) セミナーハウスについて

立命館大学では、正課・課外活動などで活用して、多様な学生生活を通じて得られる「学びと成長」を支援する施設として、セミナーハウスがあります。ここでは簡単に紹介します。ぜひ各クラスで積極的に利用してください。

なお、今年の4月から6月にかけて、新入生のクラスとして合宿をする場合は、別途の手続きになりますので、(5)の説明を参照してください。

1. 衣笠セミナーハウス（立命館大学より徒歩5分）

衣笠キャンパスに隣接したアカデメイア立命21の中にあり、洋室の会議室と宿泊室および和室の会議室兼宿泊室を擁し、宿泊できる人数は最大で150名の収容力を持つ施設です。

国際平和ミュージアムも併設していますので、見学を兼ねてご利用ください。（併設施設は学生証提示で無料）

2. エポック立命21（びわこ・くさつキャンパス内）

BKCにもセミナーハウスがあります。

(2) 施設の利用料金

正課で利用する場合は、宿泊料は無料となります。なお、正課以外でも担当教員の承認印を得ればクラス単位で利用する時は小集団クラス援助金で利用できます。

(3) 施設の予約方法

利用にあたってはまず利用したいセミナーハウスに電話にて予約をしてください。利用日の3カ月前から1週間前（なるべく2週間前）までに、直接電話で利用期間・人数等を申請し、予約をしてください。（退館時に次回予約日の予約もできます）予約後の手続き等は、衣笠学生センター（研心館2階）に必要な書類がありますので、ご確認ください。

衣笠セミナーハウス：075-465-8110 エポック立命21：077-561-2700

(4) その他

正課以外で利用する場合は、宿泊料が必要です。詳しくは衣笠学生センターにてご相談ください。

(5) 新入生クラス合宿の手続きについて

4月から6月にかけては、クラス、ゼミが集中的に利用する可能性があるため、あらかじめ、学部枠が設けられています。新入生クラスが、クラス合宿を行いたい場合は、この「学部枠」内で優先的に予約することになります。この期間にクラス合宿を行いたいクラスの代表者は、文学部事務室学生係にご相談ください。

4 学生印刷室の利用について

(1) 利用方法の説明

各小集団クラスでは、正課授業時に利用するレジュメ印刷の際に、学生印刷室に設置されている輪転機を利用することができます。輪転機は原稿1枚につき、10部以上の印刷をするときに利用できます。なお、原稿を作成する際にはB4もしくはA4にしてください。

文学部事務室前にある「小集団クラス印刷申請書」に必要事項を記載し文学部事務室窓口申請して下さい。
(事前に小集団クラス担当者許可印が必要です。)

記入された「小集団クラス印刷申請書」と「学生証」を窓口提出して下さい。窓口設置されている受付台帳に記載した後、学生証と引き換えに「印刷機の鍵」をお渡しします。

輪転機は、清心館1階 学生談話室東北角の学生印刷室内にあります。

印刷用紙は、文学部事務室内東側にあります。申請した枚数をもって、印刷して下さい。(印刷に失敗する場合があるので、若干余分に持って行ってください。学生印刷室内には、コピー機用の用紙が用意されていますが、これはコピー専用ですので、輪転機での印刷には、絶対に利用しないで下さい。)

輪転機の利用方法は、学生印刷室内の掲示を確認してください。

輪転機の使用が終了したら、速やかに「鍵」を事務室窓口まで返却して下さい。引き換えに学生証を返却します。(未使用の印刷用紙は、事務室内東側の位置に戻してください。)

(2) 「学生印刷室」の利用時間帯

1. 印刷は以下の時間帯で使用するようにして下さい。終了時間には必ず印刷が終了するようにして下さい。

授業日の 9:00~21:30

窓口時間等は変更する場合がありますので、掲示等注意して下さい。

(3) 利用にあたっての諸注意

鍵は他人に貸し出さないで下さい。また、他人の学生証でカギを貸すことはできません。

「学生印刷室」は印刷物を散らかさないよう、整理整頓に心がけてください。

輪転機が故障したら、機械を無理に操作せずに、事務室まで連絡してください。

不正使用は絶対に行わないで下さい。もし不正利用が判明した場合、所属クラスの輪転機利用禁止、利用代請求などを行います。

学生印刷室内には、コピー機用の用紙が用意されていますが、これはコピー専用ですので、輪転機での印刷には、絶対に利用しないで下さい。不正に利用したことが発見された場合は、賠償していただきます。

5 自主ゼミ援助制度について

(1) 自主ゼミ制度について

授業で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、学部内のメンバーで組織された学習グループ（自主ゼミ）に対して、施設貸与や資料作成の費用を援助する制度です。

(2) 参加資格

文学部生・文学研究科生の登録が可能です。他学部・聴講生・科目等履修生・卒業生は登録できません。

(3) 援助内容

1. 経済援助 生協で利用できるコピーカード 1,000円分
2. 施設貸与援助 学習会・研究会のための施設貸与および自治会輪転機使用（用紙は各自で準備）
3. 自主ゼミ用掲示板の使用 清心館 1Fにある自主ゼミ用掲示板を使用することができます。

(4) 受付期間・受付方法

登録の受付は、年2回、4月と10月に文学部事務室または文学部自治会（清心館 1F）にて行います。
登録手続きの詳細については、別途掲示にてお知らせします。（4月上旬および9月中旬に掲示予定です）

(5) その他

自主ゼミ活動についてはセメスター単位で登録を受け付けます。また、活動終了時に、活動実績・成果を報告してもらいます。

6 「小集団教育推進補助費」の取り扱いについて

(1) 「小集団教育推進補助費」の目的とその適用の範囲について

各小集団クラスにおける学生の自発的・集団的学習、研究活動を行うために必要な以下の目的について補助を行います。「小集団教育補助費」では下記の例のような使用が可能です。その執行については、各小集団において会計担当者を決めて文学部事務室に届け出て下さい。会計担当者には「クラス資料費伝票」を交付しますので、会計担当者が責任をもって管理・執行するようにしてください。

生協発行のコピーカード（1回の購入限度額5,000円、1クラス15,000円まで）

クラス共通のフロッピーディスク（1クラス2,500円まで）

クラス教材用VTRテープ（1クラス2,500円まで）

その他会計担当者に配布する「小集団教育推進補助費利用の手引」等を参照してください。

(2) 補助額

1クラスにつき年額15,000円です。

(3) 適用期間

毎年4月伝票交付日～翌年2月末まで利用できます。

(4) 使用の流れについて

各クラスで、クラス代表者とともに、「クラス会計」担当者2名を選出してください。

（1回生は、オリエンテーション期間の「オリター懇談会」において選出してください。）

クラス責任者は、事務室が主催する説明会に参加してください。

（説明は、文学部自治会が招集するクラス代表者会議（仮称）を通じて行います。連絡があった場合には、必ず参加するようにしてください。なお、その際には、印鑑を持参の上参加してください。）

「伝票」を交付します。

本学生協（中川会館地下1階）にて物品等の購入ができます。使用方法は、会計担当者に配布する「小集団教育推進補助費利用の手引」および「伝票」の裏書を参照してください。1クラス年間15,000円まで使用できます。使用期間は「伝票」交付日から翌年2月末までになります。伝票をなくした場合は、事務室に申し出てください。

「伝票」を返還します。

使用期限（翌年2月末日）を満了した場合は3月15日（休日の場合はその前日）までに、全額（15,000円）を使用した場合は、直ちに「伝票」を事務室に返還してください。

7 清心館「学生談話室」の利用について

清心館の一階に「学生談話室」があります。これは、学生の交流・休憩、クラス活動、自習等を行うための施設であり、文学部が「学生談話室利用申し合わせ」に基づいて文学部自治会と共同管理しつつ、日常的な運営を学生の自治に委ねています。利用者が相互に譲り合って、気持ちよく利用できるように努めてください。

1. 「学生談話室」は全面禁煙です。
2. 紙コップや空き缶などゴミは必ずゴミ箱へ捨てるようにしてください。
3. 椅子や机などを勝手に動かしたり、汚損したりしないようにしてください。
4. 「学生談話室」を利用して行事や情宣活動を行うことは許可制です。利用を希望する団体は、文学部自治会に相談の上、文学部事務室の許可を得てください。なお、許可された場合も「学生談話室利用申し合わせ」を遵守して利用するようにしてください。

8 立命館大学人文学会

立命館大学人文学会は、立命館大学文学部における学問研究の発展・深化と普及を目的として、文学部の教員・院生・学生によって構成された学会です。

当学会の活動は、1934（昭和9）年『立命館文學』の創刊に始まっています。この『立命館文學』は、斯界の評価も高く、月刊にて定期的に発刊されていましたが、戦争の拡大するなか、1940（昭和15）年10月には、ついに第60号の刊行をもって一時中断のやむなきにいたりました。しかし戦後間もない混乱期の1947（昭和22）年7月には、早くも『立命館文學』第61号の刊行を再開し、今日にいたっています。

1952（昭和27）年1月に、学会は立命館大学「人文学会」として正式に発足。会則を制定しました。1969（昭和44）年には、新たに学生部会が発足し、更に充実した学会に発展しました。

『立命館文學』の発行は、2005（平成17）年3月現在で、第589号に及んでいます。

人文学会の主要な活動は、『立命館文學』の刊行と教員・学生の研究・学修の助成におかれています。『立命館文學』に掲載された研究論文は、専任教員の論文をはじめ、学部学生の卒業論文のタイトルや院生の修士論文の概要、及び院生のおこなった書評や学界動向の紹介、さらには卒業生や非常勤講師の研究論文も数多く掲載されています。発表された研究論文の内容は、わが国の各分野の学界において高い評価をうけているものが多く、『立命館文學』の学会誌としての水準の高さを示しています。

『立命館文學』に掲載されている研究論文や、修士論文・卒業論文・博士論文（概要紹介）・書評・学会動向などは、教員の講義・演習に生かされ、また学生のグループ研究・個人研究の参考に供されていますが、今後ますますひろく活用されることを期待しています。

「人文学会」はまた院生・学生の自主的研究の助成をも目的としており、そのための事業として、学生部会による研究誌の発行、あるいは公開講演会の開催なども行なっています。学生諸君は人文学会委員を選出し、それを通じて学会運営に参加することとなっています。みなさんが学会活動に深い関心を持ち、積極的に参加されることをつよく望みます。

9 文学部事務室について

(1) 文学部事務室とは

文学部事務室は、文学部の学生のみなさんが必要な手続きをおこなったり、必要な提出物を提出する等、事務手続を行う窓口であるほか、試験や授業に関する連絡を行ったり、履修・進路・留学などの相談に応じる窓口でもあります。なお、電話での対応は、基本的に行っておりませんので、直接の来室、または、メールによる相談をお願いします。

学生印刷室にある輪転機を使用したいとき（学生証が必要です）

各専攻・プログラムの共同研究室を利用したいとき（学生証が必要です）

学割・証明書の発行（可能な限り、証明書自動発行機で購入してください。）

休学・復学・退学や追試験、受講登録、教育実習登録など、各種の手続き書類の配布・受付

その他

文学部事務室を通じて、立命館大学が提供するさまざまなプログラムやサービス、施設などを活用し、積極的・主体的な学修・学生生活をおくってください。

(2) 窓口時間

授業のない期間については、時期によって窓口時間が違いますので、よく確認してください。

【開講期間中の窓口時間】9：00～11：30 および 12：30～18：30

2005年度より窓口時間帯が18：30までとなります。ただし、夜を中心に学修する学生、社会人学生で上記時間内に来室する事が難しい場合は、18：30～21：30に来室してください。

なお、17：00以降は学芸員課程についての対応はできませんので注意してください。

(3) 文学部事務室ホームページ

【立命館大学文学部事務室ホームページ】 URL <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/cg/lt/jimu/>

文学部事務室では、主な情報をホームページで提供していますので、ご覧になってください。

（提供情報の一例）定期試験時間割、休講情報、教職課程・学芸員課程・学部独自インターンシップなどの諸連絡、その他

また、文学部事務室では、メーリングリストによる各種案内や休講情報も、随時行っています。1回生オリエンテーションでの「書類交付ガイダンス」でみなさんに配布する「RAINBOW ID通知書」のIDを活用して、情報入手してください。